

1

山田さんの中学校では、国語の授業の始めに一人ずつスピーチを行っています。次は、山田さんのスピーチです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは、「星占い」で使う自分の星座を知っていますか。そして、その星座を実際に見て確かめたことがありますか。

今からおよそ五千年前、メソポタミアの人々は、一晩中星を眺めて星座を考えていたそうです。古代の人々にとって星座は、カレンダーとして、また占いの手がかりとして大切な役割をもっていたのです。

ところが、今ではどうでしょう。私たちの住んでいる町では夜も明るく、星の光はほとんど見えません。私は、このことをとても残念に思います。私は、今年の夏休みに、母の田舎で満天の星を見ることができました。私の星座であるさそり座も見えました。古代の人は、星を見てどんなことを考えたのだろうと思ったら、ちよっぴり幸せな気持ちになりました。

こんなすてきな思いにさせてくれる星っていいなあと思います。私は、将来、母の田舎のような、星の見えるところに住みたいと思いました。

一 満天の星 とありますが、この言い回しは聞き手に分かりづらいので、聞いて分かりやすい表現に直したいと思います。
次の に当てはまる言葉をひらがな四字で書きなさい。

空 の星

二 山田さんのスピーチに題名をつけるとしたら、次の には、どのような言葉を入れるとよいですか。あとの1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

へのあこがれ

- 1 星占い
- 2 母
- 3 星空
- 4 夜